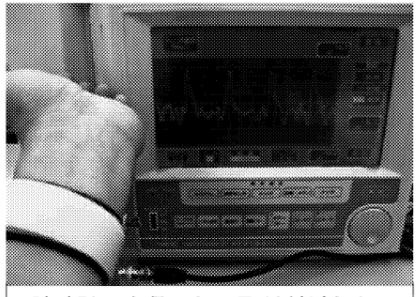


手首で心臓微細動感知

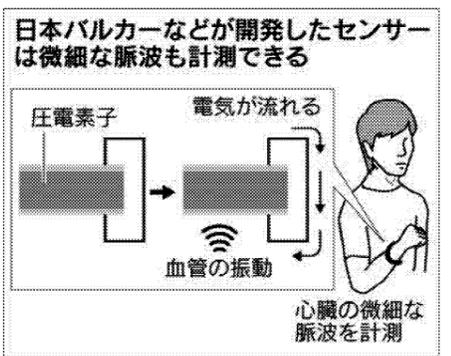
日本バルカーと関大



腕時計のようにして取り付けられたセンサーで心臓の脈波を計測する

日本バルカー工業は関西大学と共同で、手首に取り付けることで心臓の微細な動きを感知することが出来るセンサーを開発した。手首の脈拍の動きでは分からない細かい心臓の動きを検知することで、正確なデータ分析に役立つ。薬を服用している人に副作用が発生していないか計測したり、スポーツ科学の分野に活用したりする。2016年度に実用化を目指す。

腕時計型センサーに圧電素子 薬服用・運動時の動き読む



関西大学の田実佳郎教授と開発したのは腕時計型の振動検知センサー。手首に巻く腕時計型のデバイスの中に、日本バルカー工業が開発した厚さ50〜60ミクロン(約は100万分の1)のフッ素樹脂製の「圧電素子」シートを組み込んでいる。圧電素子は力を加えることで電圧が発生する素子で、そのデータを計測することで心臓の動きを検知する。

質がわずかにあった。体温で電圧がに動き、電発生する性質もあった。日常的な健康管理に利用できる用途などが見込まれる。医師にデータを送れば、飲む薬の副作用がどのように出ているかといった情報を脈波から読み取ることも可能だ。スポーツ分野では、運動中に脈波の動きを読み取る。体に負荷がかかり、通常よりも大きな脈波になった場合は休息を取り入れたり、栄養補給をしたりするといった管理が可能だ。(杜師康佑)